



「多くの人に安心して食べてもらいたい。」

和水町瀬川のスイーツショップ「Renren Sweets」の眞弓蓮さん。ご両親が営む、まゆみ窯と同じ敷地内にある4年目を迎えるお店です。

開店のキッカケは、まゆみ窯でお手伝いをしていたとき、お父様が個展を開く際に蓮さんの作ったパウンドケーキをお土産として持って行ったところ、とても好評で、周りの人たちからお店を開くことを進められたことだそうです。

蓮さんは、「一般的にお店を開くということは、かなりハードルが高いことだとは思いますが、自分は小さい頃から、まゆみ窯を営む両親の姿を見ており、自分の好きなことを仕事にできることの素晴らしさを知っていたので、あまり悩むことなく決断することができたし、環境に恵まれていたのだと思います。」とおっしゃいました。

お店を開くと決めてからは話がどんどん進んでいき、自分でも現状がわからなくなるほどあっという間に過ぎ、オープン前は、楽しみという気持ちより、本当にお客さんが来てくれるかという不安でいっぱいだったそうです。ですが、いざオープンすると、地域にできた待望のお菓子屋さんということで、多くのお客さんが来店してくださったとのこと。そのときには、オープン前に感じていた不安は無くなり、とにかく一日一日を乗り越えるのに精一杯で、心配や不安などを感じる暇がないほど、仕事に打ち込む日々が続いたそうです。

蓮さんがケーキ作りで一番大切にしていることは、多くの人に安心して食べてもらえること。そのため香料は使わず、素材の風味を感じられるようにしたり、パウンドケーキにのける、オレンジピールに使う果物は、無農薬のものを取り寄せたりするなど、安全性にとってもこだわったお菓子作りをされています。

お店の今後については、「町内の人たちにもっともっと知ってもらい、地域に愛されるお店になることと、少しずつ町外や県外からもお客さんが来てくれるようになることを目標に頑張ります。」とおっしゃっていました。

協力隊活動記 Vol.58

明けましておめでとうございます。地域おこし協力隊の大木将裕です。昨年は、金栗四三翁マラソンや山太郎祭が無事に行われ、少しずつ日常が回復してきたように感じます。自分としては、はじめて目にする行事ばかりでしたので、和水町の文化に触れることができ、とても嬉しく思っています。今年も数多くの行事が行われ、町に活気があふれることを願います。

本年も和水町の魅力の発掘や、情報発信に力をいれ活動していきたいと思いますので、よろしくお願いします。